



Y K K

読もう書こう考えよう

みなさんこんにちは。図書館のオジサン(前回オヂサンと書いてあらぬ憶測を呼びましたが)伊丸岡です。

新型コロナウィルス、非常事態宣言、休校。ホントに参りましたね。みなさん、いかがお過ごしでしたか？

図書館では、この休校期間中、ちょっとした作業を進めています。

まず、剥げた背表紙や日焼けして文字の見えなくなった背表紙の付け替えです。里さんに、大量の背表紙修理をしていただきました。文庫コーナーや画集コーナーを見て下さいね。ずいぶんと見やすくなっています。

また、文庫棚の、作者名の頭文字五十音インデックス(差込表示板)も新しくしていただきました。特に外国人作家はこれまで、アルファベット順の配架でしたが、カタカナ読みに変更しました。探しやすくなりましたよ！

次に、文庫・新書棚の入れ替えです。新書はぜひみなさんに1冊でも多く読んでもらいたい、手にとってもらいたいとの願いから、見やすい側に新書を配置。文庫は興味のある人は多少奥まったところにあっても探しに行ってくれるだろう、との判断から奥側に置くこととしました。

それから、十進分類法に従った、壁面書棚のはしっこ(0番台)から、1日1段分ずつのペースで、1冊ずつ本をきれいに拭いて戻しています。このサシスセソで、漫然と眺めているよりも、どんな本が所蔵されているのか、まさに手にとって把握する作業だと思いながらやっています(サシスセソ=サ行ね)。

前年度新着図書が所定の棚に収まり切れていないなど、まだまだ整理作業がありますが、みなさんにとって使いやすい図書館を目指して、今後も作業を進めていきますので、ぜひたくさんさんの利用をお願いします。

加えて。新聞記事の貼り出しについて宣伝を。

新聞を購読していない家庭も多いと聞かず今ですが、いま、知的成長期のまっただ中にいるみなさんには、ぜひ、新聞を読む習慣を身につけていただきたい。活字による情報収集、考える作業、表現力を培うといった一石二鳥にも三鳥にもなる新聞。図書館前に貼り出した、みなさんに読んでもらいたい記事に切り抜きも、この休校期間中にどんどんたまりました。ぜひ、読みに来て下さいね。図書館が閉まっても、廊下の新聞記事は読めますから。

本校図書館のウィルス対応

【1】図書館入館時に、消毒液でみなさんの手指を消毒していただきます。閲覧した(手に取った)本の方をすべて消毒することは不可能ですので、ご協力をお願いします。

【2】返却された本は係が1冊ずつ、消毒液を噴霧した布で拭き取って棚に戻します。

なんだかみなさんにウィルスが付いているような前提の処置のようで申し訳ありませんが、お互いの安心・安全のため、ご理解とご協力をお願い致します。



新入生ガイダンス

ことは新入生のみなさんに、現代文の時間の半分を使って、クラスごとに図書館に入ってもらってのガイダンスを実施しています。おもしろそうな本はあったでしょうか？

学校は生徒のためにあります。学校図書館ももちろんのこと。購入希望図書も随時受け付けます(購入時期は予算配分の関係で半年に1回程度となります)ので、カウンター端に置いてあるリクエストカードに記入して出してみ下さいね。

また、ことは登校初日から昼休みと放課後に開館してみましたが、けっこう来館者がいます。

みなさん、どんどん借りて下さい、読んで下さい、来館して下さい。たまには四面書架の中に浸かってみて下さい(ボクは本屋に浸かるのが好きです)。お待ちしております。

(なお、「四面書架」というのは、札幌南高校の図書館だよりのタイトルです。粋だねえ)

企画展示コーナーをのぞく

きょうは、カウンター奥にある「企画展示」のディスプレイ・ラックをのぞいてみることにしましょう。

まず、たくさんの **「なるにはBOOKS」** 請求記号366 というシリーズ本が並んでいます。

『作業療法士になるには』『臨床検査技師になるには』『診療放射線技師になるには』『看護師になるには』『保健師・養護教諭になるには』『歯科衛生士・歯科技工士になるには』『助産師になるには』『言語聴覚士になるには』『救急救命士になるには』
といったタイトルがずらりと並んでいます。みなさんの中にはすでにその職業を目指している人も
いるかも知れませんが、「言語聴覚士って初めて聞く」という人もいますことでしょう。

その職業がどんな仕事内容なのか、その職に就くためにはどうすれば良いのか、実際にその職に就いている人の声といったことを職業別に解説した叢書が、ぺりかん社のこのシリーズなんです。

なぜその職業を目指したいのか、どのくらいその世界に対する理解を深めているか考えるための1冊です。ぜひ小論文・面接対策にこういう本も。



また、関連本として、次のような本も並んでいます。たとえば、医療関係に進学しようとしている諸君、さらには、面接や小論文試験があるという諸君は、こういう本を読んでおくのがお勧めだと思いますよ。

ちなみに、

『医と人間』

請求記号490

あの、iPS細胞でノーベル賞受賞の山中伸弥先生の「再生医療と創薬」ほか、11名の医療関係者が語っています。医療関係に進もうと考えている諸君、いかがですか？

『医療の限界』

小林秀樹 新潮新書

請求記号498

医療のミスは犯罪か？ 患者は消費者か？

『命の格差は止められるか』

イチロー・カワチ

請求記号498

ハーバード大、日本人教授の、世界が注目する授業。日本人はなぜ長寿なのか？ 病院より、薬より、大切なものがある…。

『看護師という生き方』

宮子あずさ ちくまプリマー新書

請求記号498

「私が看護師っぽくなるまで」「看護師は、生き抜く力が身につく仕事」…刺激的な目次が並びます。



◆クイズ◆ 職業名に「師」と、「士」と、「司」が付くものがありますが、さて、違いは何でしょう？

「小論文を書くために読んでおきたい本」リスト



カウンターの端のほうに、こういうリストが載っています。牧野先生が昨年6月に作成されたものです。お持ち帰り自由。3年生の諸君はもちろん、2年生もぜひ今のうちからこのリストに掲載されたような本を読んでおきましょう。

また、6人掛けテーブルと奥の書棚との中間に、背の低い書棚がありますね。ここに、小論文対策に役立ちそうな本が集められています。ぜひ、手に取ってみましょう。

新聞でも本でも、まず、読むこと。それを習慣づけること。そうしない限りはいつまでたっても内面磨きの一步を踏み出せません。

「自分を語れるか？ 語れる自分があるか？」

ぞうきん

小4女子

つかわれて
つかわれて
つかわれて
つかわれて
つかわれて
つかわれて

まっくろになるのが
私の夢です

志村けんとじゃんけん



コロナ禍によって忽然とこの世を去った志村けんさん。いまだに志村ロスに気持ちが沈みます。数々のコントの中でもボクは、ヒトミ婆さんの芸と、柄本明との芸者コントが大好きでした。志村けんが「最初はグー」のかけ声を始めたのは大変有名で、以来、日本全国で「最初はグー」で始められるようになりました。じゃんけんの由来を調べてみると、江戸時代に長崎経由で中国から入ってきたものだそうで、かけ声は、かつては地方色豊かだったようです。

「じゃらけつはい」「じけつた」「じーげんぴっ」などなど数多くあるようです。ボクの生まれ故郷では「おいやっえっ」というかけ声でした。あいこの時は、間髪を入れずに「えっ」「えっ」「えっ」と繰り返します。「あいこでぽん」なんて悠長なことはしません。男の子占用だったと思いますが、かなり勇ましい。北海道どこでも共通だと思っていましたが、他の地域では言わないと、おとなになってから知りました。

▲『詩が大すきになる教室』より
(西口敏治 さえら書房)

じゃんけんに関しては、**『こども遊び大全』** 請求記号384 (単行本で配架。NDC 380 台というのは、風俗習慣・民俗学・民族学の領域です)や、**『日本大百科全書』** 請求記号031 といった百科事典系でも調べられます。

紙による活字情報は、基本的に信頼に足る情報です。

一方、かれこれ、ここ 20 年間で飛躍的に発達したインターネット情報は、早さや発信力という点では優れているものの、「目に入りたいものだけを目にし、信じたいものだけを信じ、発信する快楽に身を任せてしまうのであれば意味はない」と、最近刊行された**『遅いインターネット』** (宇野常寛 幻冬舎 1,760 円)で著者は言っていると、朝日新聞 4 月 11 日の書評は伝えています。

活字媒体にも、紙媒体、デジタル媒体それぞれにメリットデメリットがある、情報化社会に生きるみなさんは、今一度この問題についても考えてみてはどうだろうか。

「時事は全教科の教材」 明大・斎藤孝教授語る 4月15日付朝日(要旨)

最近の学校教育では「思考力・判断力・表現力」を身につけることが目標にされており、大学入試もこれに即したものになりつつあります。思考力を鍛えるためには思考に適した題材が必要。そのためには時事情報が最適の題材。表現力は、言い換えれば「コメント力」。あらゆる問題に対して意見を持つ力ですが、トレーニングには時事情報を使うことが有効。時事を学ぶことは国語における文章読解、数学における計算やグラフの読み解き、社会における知識学習と言った要素が詰まっています。学校の基本的な学びと密接につながった総合的な学びである。映像の情報も大事だが、ぜひ活字で時事情報を学んでほしい。 ニュースの前には背景があり、ニュースの後には影響や展開が続く。社会に対してアンテナを立てよう。世の中に関心を持とう。

続きは、図書館前の新聞切り抜き掲示をぜひ読んで下さい。

そうだ、図書館へ行こう。

分散登校期間中も、図書館は開館します。
貸出、返却にぜひ利用して下さい。



名作渉猟

芥川龍之介全集第3巻、P.216。『桃太郎』の一節である。
桃太郎の家来となった犬、雉、猿は非常に仲が悪かった…。



…すると犬は吠えたけりながら、いきなり猿を噛み殺さうとした。もし雉がとめなかったとすれば、猿は蟹の仇討ちを待たず、この時もう死んでみたかも知れない。

ボクは大爆笑しました。芥川って、大まじめにこんなお茶目な一文をそっと紛れ込ませていたんですね! え? どこが面白かった? わからない人は、図書館までお越し下さい。

さらに、こんなおもしろい「表記」にも出会った。

るるる
累 累

しじつぶん
午前八時四十分

ありがた
難 有う。

「るるる」はいたってまじめな、歴史的仮名遣いによる読み仮名なんだけど、なんだか面白くありません?

「しじつぶん」。なるほど、往時は「よんじつぶん」とは読まなかったんだね。

「有難う」いまならこう書くが、昔は漢文の語順のまま書いていたんだね。

何でもかんでも現代表記(漢字、仮名遣い)にすりゃあ、わかりやすいつてもんでもない。当時の表記に触れるのもまたたのしいではないか。芥川は昭和2年に亡くなっている。ことしは令和2年。没後93年。



雉も鳴かずば打たれまい 記事も貼らねば読まれまい

さて、いま掲示している新聞コピーの見どころを紹介します。

❶南木佳士のエッセイ。南木佳士っていう作家、知ってる? ボクは好きなんです。なんだかあったかい文章なんですよ。本業は医者なので、病院関連の作品が多いような気もしますが、自身の田舎暮らしや鬱との闘病を描いた自伝的作品もいい。『海へ』の中には、おじいさんの看病を一心に務めるおばあさんの話が面白い。そしておばあさん自身も死の床に就いたとき、

「なんだかあ、食うだけのものは食っちゃったような気がするだが」
という一句を吐き、それに対して医師は蜂蜜を勧める。いいお話です。

『冬物語』もいいですよ。最近南木佳士さんは1冊の新刊を上梓されました。



❷エッセイつながりで、解剖学者・養老孟司の「人生は本来不要不急」。養老さんはかつて『バカの壁』という新書を出して、これが大ヒット。なんとかの壁という本が相次いで出されました。新書ブームの先駆けになった本でもあります。養老さんのものの見方もとても勉強になります。理系理系していないところがいいですね。

❸やはり新型コロナウイルス関連の切り抜きは多い。

その性質の解説記事(わりと理系)。その予防対策(生活関連)。「自粛警察」などを生じた社会現象を連載した記事(社会面記事)。などなど、コロナ一つとっても、さまざまな記事があるんです。新聞はこういう所がまた勉強になります。小論文を書いたり、書かなくても、物事を多面的に見るという思考の訓練にもいいわけです。

(文責 伊丸岡圭一)